

## 8 一次独立と一次従属

$V$  をベクトル空間とする .

### 8.1 定義

定義 8.1  $v \in V$  が  $v_1, \dots, v_n \in V$  の 1 次結合であるとは実数  $c_1, \dots, c_n$  を選んで

$$v = c_1 v_1 + \dots + c_n v_n$$

と書けるときにいう .

定義 8.2  $v_1, \dots, v_n \in V$  が 1 次独立であるとは ,  $c_1, \dots, c_n \in \mathbb{R}$  に対して

$$c_1 v_1 + \dots + c_n v_n = \mathbf{0} \quad (3)$$

となるならば ,  $c_1 = c_2 = \dots = c_n = 0$  でなくてはならないときに言う .

$$v_j = \begin{pmatrix} v_{j1} \\ \vdots \\ v_{jm} \end{pmatrix}$$

と書くとき ,  $\{v_j\}$  達が一次独立であることは連立斉次方程式

$$\begin{cases} v_{11}x_1 + \dots + v_{n1}x_n = 0 \\ \vdots \\ v_{m1}x_1 + \dots + v_{nm}x_n = 0 \end{cases}$$

が , 自明な解  $x_1 = \dots = x_n = 0$  しか持たないことに対応している .  
一次独立でないとき 1 次従属という .

### 8.2 判定法

定理 8.1 (教科書 p.70, 定理 4.2.1)

$V$  のベクトル  $u_1, \dots, u_n$  が 1 次従属である必要十分条件は ,  $u_1, \dots, u_n$  のうち少なくとも一つのベクトルが他の  $n - 1$  個のベクトルの一次結合で書けることである .

証明 (必要性)  $u_1, \dots, u_n$  が 1 次従属とする . このとき少なくとも 1 つは 0 でない  $c_1, \dots, c_n$  がとれて ,

$$c_1 u_1 + \dots + c_n u_n = 0.$$

簡単のため  $c_1 \neq 0$  とする . このとき上の式を  $u_1$  について解く事により ,  $u_1$  は他の  $n - 1$  個のベクトルの 1 次結合で書ける .

(十分性)  $u_1$  が他の一次結合でかけると ,

$$u_1 = c_2 u_2 + \dots + c_n u_n$$

これは (3) で  $c_1 = -1$  となっている式なので ,  $u_1, \dots, u_n$  は 1 次従属 .  $\square$

定理 8.2 (教科書 p.70, 定理 4.2.2)

$u_1, \dots, u_n$  が 1 次独立で ,  $u, u_1, \dots, u_n$  が 1 次従属ならば  $u$  は  $u_1, \dots, u_n$  の 1 次結合で書ける .

証明 仮定より ,  $c, c_1, \dots, c_n$  をどれかは 0 で無いように選んで

$$c u + c_1 u_1 + \dots + c_n u_n = 0$$

が成り立つ . もし  $c = 0$  ならばこの式は

$$c_1 u_1 + \dots + c_n u_n = 0$$

と同値で ,  $u_1, \dots, u_n$  が 1 次独立なので , このとき  $c_1 = c_2 = \dots = c_n = 0$  でなくてはならない . したがって  $c \neq 0$  である . 移項して  $-c$  で割ることにより ,  $u$  は  $u_1, \dots, u_n$  の 1 次結合で書けている .  $\square$

記号として  $u_1, \dots, u_m \in V$  と  $m \times n$  行列  $A$  に対して

$$(u_1, \dots, u_m)A = (a_{11}u_1 + \dots + a_{m1}u_m, \dots, a_{1n}u_1 + \dots + a_{mn}u_m)$$

と書く .

定理 8.3 (教科書 p.71, 定理 4.2.3)

$V$  のベクトル  $v_1, \dots, v_n$  と  $u_1, \dots, u_m$  に対し ,

(1)  $v_1, \dots, v_n$  の各ベクトルは  $u_1, \dots, u_m$  の 1 次結合で書ける .

(2)  $n > m$

ならば  $v_1, \dots, v_n$  は 1 次従属である .

証明 条件 (1) より , ある  $m \times n$  行列  $A$  に対して

$$(v_1, \dots, v_n) = (u_1, \dots, u_m)A$$

となっている . いま  $Ax = 0$  という同次方程式を考えると ,  $\text{rank}(A) \leq m < n$  だから , 自明でない解  $x = c$  がある . ( $c \neq 0$ ) よって ,

$$c_1 v_1 + \dots + c_n v_n = (v_1, \dots, v_n)c = (u_1, \dots, u_m)Ac = 0$$

となり ,  $v_1, \dots, v_n$  は 1 次従属になる . □

### 8.3 例

例 8.1 (教科書 p.73, 例題 4.2.2)

(1) 次のベクトル  $v_1, v_2, v_3, v_4$  を行列を用いて  $u_1, u_2, u_3, u_4$  の 1 次結合で表せ .

(2) また ,  $u_1, u_2, u_3, u_4$  が 1 次独立のとき ,  $v_1, v_2, v_3, v_4$  が 1 次独立か 1 次従属か調べよ .

$$\begin{aligned} v_1 &= u_1 - u_2 + 3u_3, & v_2 &= 2u_1 - u_2 + 6u_3 + u_4 \\ v_3 &= 2u_1 - 2u_2 + u_3 - u_4, & v_4 &= u_1 - u_3 + 3u_4 \end{aligned}$$

解 (1) 先ほど学んだ行列を使って表そう .

$$\begin{aligned} &(v_1, v_2, v_3, v_4) \\ &= (u_1 - u_2 + 3u_3, 2u_1 - u_2 + 6u_3 + u_4, 2u_1 - 2u_2 + u_3 - u_4, u_1 - u_3 + 3u_4) \\ &(u_1, u_2, u_3, u_4) \begin{pmatrix} 1 & 2 & 2 & 1 \\ -1 & -1 & -2 & 0 \\ 3 & 6 & 1 & -1 \\ 0 & 1 & -1 & 3 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

(2) 右辺の行列を  $A$  と書こう .

$$c_1 v_1 + c_2 v_2 + c_3 v_3 + c_4 v_4 = 0$$

とする．これは列ベクトル  $c = \begin{pmatrix} c_1 \\ c_2 \\ c_3 \\ c_4 \end{pmatrix}$  を使うと

$$(v_1, v_2, v_3, v_4)c = 0$$

と書け，左辺は  $(u_1, u_2, u_3, u_4)Ac$  となる． $u_1, u_2, u_3, u_4$  は 1 次独立と仮定してあるので，上式が成り立つのは  $Ac = 0$  の時のみ． $A$  を簡約化しよう．

$$\begin{aligned}
 A &= \begin{pmatrix} 1 & 2 & 2 & 1 \\ -1 & -1 & -2 & 0 \\ 3 & 6 & 1 & -1 \\ 0 & 1 & -1 & 3 \end{pmatrix} && \xrightarrow{\textcircled{1}+\textcircled{2}, \textcircled{3}+\textcircled{2} \times 3} \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 & 1 \\ -1 & -1 & -2 & 0 \\ 0 & 3 & -5 & -1 \\ 0 & 1 & -1 & 3 \end{pmatrix} \\
 &\xrightarrow{-\textcircled{2} \leftrightarrow \textcircled{1}} \begin{pmatrix} 1 & 1 & 2 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 3 & 5 & -1 \\ 0 & 1 & -1 & 3 \end{pmatrix} && \xrightarrow{\textcircled{1}-\textcircled{2}, \textcircled{4}-\textcircled{2}} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 & -1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 5 & -4 \\ 0 & 0 & -1 & 2 \end{pmatrix} \\
 &\xrightarrow{\textcircled{1}+\textcircled{4} \times 2, \textcircled{3}+\textcircled{4} \times 5} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 6 \\ 0 & 0 & -1 & 2 \end{pmatrix} && \xrightarrow{\textcircled{3}/6, \textcircled{4} \times (-1)} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & -2 \end{pmatrix} \\
 &\xrightarrow{\textcircled{1}-\textcircled{3} \times 3, \textcircled{2}-\textcircled{3}, \textcircled{4}+\textcircled{3} \times 2, \textcircled{3} \leftrightarrow \textcircled{4}} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}
 \end{aligned}$$

となり， $\text{rank}(A) = 4$  なので， $Ac = 0$  を満たす  $c$  は 0 のみ．つまり  $c_i = 0$  となり  $v_i$  達は 1 次独立．

練習 8.1 次のベクトルは 1 次独立か 1 次従属か調べよ．(教科書 p.74, 問題 4.2, (1), (3))

$$(1) \quad \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \quad (2) \quad \begin{pmatrix} 2 \\ 4 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 5 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ 3 \end{pmatrix}$$